

大理石新聞

No.14

これは「伝統・地場産業を対象にした商品企画事業」のニューズレターです

平成二十五年
三月発行

発行元

伝統・地場産業を対象にした商品企画事業事務局

宇部市あすとぴあ 4-1-1 山口県産業技術センター内

担当：野村

0836-53-5059

3億年の石プロジェクト
WS No.14
3月5日(火) 19:00～22:00
さぼらんでにて

- ロゴマークなどの確認
- 組合HP 進行状況
- 事業全体の反省と感想

3億年の石 Pro 一年目は生活者を交えたチームを作って、石の勉強会をしたり、商品企画書を作りました。二年目は絵に描いた新商品が現実になっていき、展示会を開催し、どう展開していくか考えてきました。さて最後のワークショップの報告とまとめです。

■mine stoneのロゴやマークなど

昨年に決まったブランド名 mine stone のロゴ・シンボルマーク、パッケージ案、リーフレット案をチームで確認しました。この名前に決まったのは、「美称だからこそこの石がとれて作れた。ほかの土地ではできない」という思いと、mine の響きには美称、私のもの(英) 鉱山(英) という意味も含まれているからです。そこからシンボルマークは、様々な思いがこもった“mine”を表すため、Mが複数重なった形になっています。



■新・組合ホームページ(HP)に期待大!
昨年末に組合HPのトップページを確認しましたが、その後に上村さん・安藤さ



んの元でコンテンツを充実させる作業が行われていました。更新作業自体がまだまだ慣れないということですが、HPの各ページには少しずつ情報が埋まっています。組合員の顔も入ったとても感じの良いHPです。さらに Facebook と Twitterとの連動も始まっていて、こちらはすでに石に関する情報が更新されつつあります。組合HPの実際の運用は約一ヶ月後を目標にしています。

△Facebook のアカウントは山口県大理石・オニックス組合、Twitter のアカウントは sonono28 様。

■そして事業や商品のこれから、自分が明日から無理なくできることは

とはいえずすべての問題が解決できているわけではありません。問題とは組合自身が抱える問題、①組合の中でも設備や普段の仕事にばらつきがあるのが安定的な生産や分業が難しい。②①の問題や営業の人手不足を考えると後継者はほしい。③minestone の今後の生産と売っていくための戦略がまだ足りない。問題の解決が進まないのは、努力が足りないからとばかりは言えないと思います。普段の仕事を頑張っているでもどうしようもない部分ってありますよね。でも「どうしようもない」で終わらせないためにもできることは「多くの人に(石や組合について)興味を持ってもらうこと」と上村さんは

言います。そしてこの理想と現実のギャップで一番悩んでいるのはほかならぬ組合長・上村さんです。

そこで明日から一ヶ月先の間までに自分が無理なくできることは何か?を発表してもらいました。

- ・カバンの中に大理石商品を忍ばせておいて、あちこち見せびらかす。自分で使う
- ・HP、ツイッター、FBで情報アップ
- ・デザインプラザエOFUに minestone 展示コーナーをつくります。

- ・美称ジオツアーに大理石を組み込みます。
- ・地産地消 よそに行くときには土産で大理石を持って行きます。
- ・生産者と(大理石の) 山歩きます。

- ・HP 充実させます。
- ・井筒屋の展示スペース料金を調べます。

- ・今後もキャンペーンガールとして関わりたい。



これらの努力の積み重ねが問題を解決していく力になるはず。この事業はセンター主導の「商品企画事業」として始まった実験的取り組み。それが今年度で終わる予定ですが、大理石組合と山口に住む生活者の皆さんの関係に区切りがついたわけではないです。(むしろこれからどんどん関わって欲しい!) 上記のやり方で各自で続けていってほしいです。3億年、というぐらいですからかなり気長に…。

コーディネーターとして今まで不手際ばかりですが、私も今後、自分の立場でできることをやっていきます。まずは3億年の石Proの記録をまとめようと思います。それではありがとうございました。(野村)

3月5日
メンバー
(順不同・敬称略)

上村典明
(峰北舎)

安藤浩太郎
(安藤石材)

杉本蕃
(杉本大理石)

水津隆之
(スイズ産業)

渡辺洋子
河村雅江

山尾春行
大庭直子

木村和枝
水沼・野村

応援・ご協力ありがとうございました。センター主導のワークショップは終わりますが3億年の石プロジェクトは組合主導となり今後も続きます。引き続きよろしくお願いいたします。